

[ライブ・サーティ]

Live30

<http://www.omichikai.or.jp>

VOL.

213

2015年
11月-12月



CLOSE UP

大道会の介護サービス ①在宅事業部編

OMICHI ACADEMY

第1回アジアオセアニア ニューロリハビリテーション学会
第39回日本リハビリテーション医学会近畿地方会学術集会
Roslyn Boyd 教授講演会

OMICHI SCRAMBLE

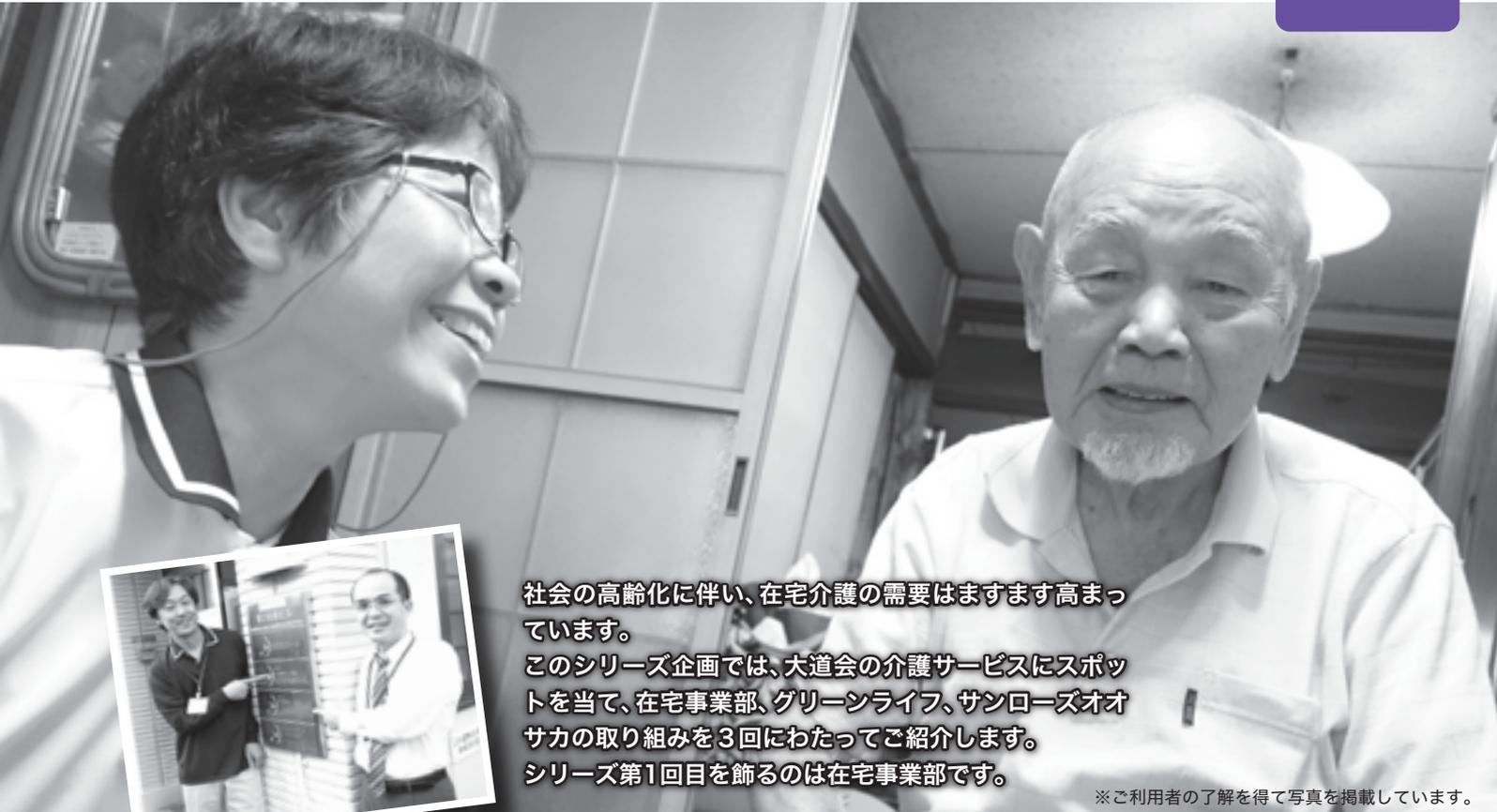
新入職員フォローアップ研修を開催
訪問看護師が中浜地区防災訓練に参加
全日本病院学会で病院機能評価の実践を報告

INFORMATION

地域ケアマネジャー向け勉強会を開催
古澤正道名誉副院長・高橋幸治主任が執筆した
『脳卒中後遺症者へのボバースアプローチ～基礎編』が出版



最優秀賞
「Live30」
雑誌「Live30」に掲載において
最も優秀であると認定された雑誌は、
日本4社のみです。
日本4社のみ



社会の高齢化に伴い、在宅介護の需要はますます高まっています。

このシリーズ企画では、大道会の介護サービスにスポットを当て、在宅事業部、グリーンライフ、サンローズオオサカの取り組みを3回にわたってご紹介します。シリーズ第1回目を飾るのは在宅事業部です。

※ご利用者の了解を得て写真を掲載しています。

在宅事業部の歴史

平成8年(1996年)	訪問看護ステーションおおみち 開設
平成12年(2000年)	居宅介護支援事業所事務センター(現・ケアプランセンター城東おおみち)開設
平成15年(2003年)	訪問看護ステーション東成おおみち 開設
平成15年(2003年)	ケアプランセンター東成おおみち 開設
平成19年(2007年)	レンタルケアおおみち 開設
平成20年(2008年)	ケアプランセンター城東おおみち 特定事業所加算Ⅰ取得
平成21年(2009年)	訪問看護ステーションおおみち・訪問看護ステーション東成おおみち 居宅療養管理指導・介護予防居宅管理指導 取得
平成22年(2010年)	ケアプランセンター東成おおみち 特定事業所加算Ⅱ取得

大道会在宅事業部の歴史は平成8年(1996年)の訪問看護ステーションおおみち開設から始まります。その後、訪問看護や居宅介護支援(ケアプラン作成)、福祉用具貸与・販売、住宅改修等、様々な在宅サービスに取り組んできました。開設から19年を経て、現在では城東区と東成区を中心に5つの事業所を展開しています。

在宅事業部 大道会の特色

1 医療に強い スタッフの育成

在宅事業部は訪問看護ステーションを併設しており、どの職種も日常業務において看護師と連携する機会が多くなっています。また、このような恵まれた環境下で日常業務を行っているため、在宅の現場においても看護師と同行することが非常に多くなり、必然的に医療について生きた学習が積み重ねられます。さらに、看護師は病棟看護師としての経験があっても当事業部へ異動、入職した場合、数ヶ月間の職場内研修(OJT)の機会を設け、在宅経験者と同行訪問する形式をとっています。

それ以外の職種においても、普段の業務で得た経験から医療ニーズの高い方の依頼も積極的に受け、各事業所ごとに事例検討を実施してチームとしても医療技術・知識を底上げできるように努力しています。

2 質の高い リハビリテーション

介護保険でのリハビリテーションは生活期リハビリテーションとも言われ、その方の暮らしや日常生活における障がいや困難を取り除くことが求められています。私達は森之宮病院、ボバース記念病院での勤務を経た経験豊富なスタッフによる質の高いリハビリテーションと生活期リハビリテーションをうまく融合し、

事業所紹介

利用者の病期や暮らしに合った最良のリハビリテーションを実施することで、日常生活動作の再獲得や社会参加をお手伝いすることに努めています。また、セラピストが訪問看護師にリハビリテーションの指導を行い、利用者のリハビリテーション状況について定期的に相談し合っているため、訪問リハビリテーションを受けていない期間でも、訪問看護の中で継続的にリハビリテーションが行える体制を整えています。

3 地域活動への参加

地域では「ふれあい喫茶」や「防災訓練」等、様々な取り組みが行われており、在宅事業部も地域の一員としてこれらの活動に積極的に参加しています。私達は、このような活動を通して地域の方々にとって身近な存在となり、気軽にお声をかけて頂ける関係を築けてこそ、地域の事業所としての存在意義があると考えています。

また、医療に強いスタッフを擁する事業所として、地域のケアマネジャーの方々向けに、看護師やセラピストによる勉強会を今後も定期的に開催していきたいと考えています。地域包括ケアシステム構築のためには、公的サービスの提供のみならず、地域の方々や地域の様々な専門職と顔の見える関係づくりを進める必要があると考えています。

今後これらの活動の幅を広げ、城東、東成地域の地域包括ケアシステム構築の一翼を担えるような存在になりたいと思っています。

訪問看護ステーションおのみち



24時間対応、看取り、重症度の高い利用の受け入れ等、機能性の高い訪問看護ステーションをめざしています。また、訪問看護が地域の軸になれるよう地域交流(ふれあい喫茶、講演、防災訓練、地域ボランティア等)にも取り組んでいます。

訪問看護ステーション東成おのみち



スタッフ同士助け合う気持ちの強いステーションです。地域の病院・ケアマネジャー等から多くの支持を頂いています。他職種と密に連携し、質の高い看護を提供させていただきます。

ケアプランセンター

要支援・要介護認定されたご本人・ご家族の希望に沿った介護サービスを適切に利用できるように、状況や生活環境等に配

慮し、利用する介護サービスの種類や内容を定めた「介護サービス利用計画(ケアプラン)」作成を担当する事業所です。ケアプランセンター城東おのみちは、要介護が重度の方、ケアプランセンター東成おのみちは軽度の方を主に担当しています。



ケアプランセンター城東おのみち

ケアマネジャー6名が、細やかな心遣いと敏速な対応を心がけ、ご本人・ご家族を中心としたケアチームを作り、「共に考えること」を大切に支援させて頂いています。



ケアプランセンター東成おのみち

6名のケアマネジャーが在籍しています。地域の「顔」になれるよう、地域包括支援センターや地域サポーターの方と連携を密にとり、利用者が地域で安心して暮らせるように尽力しています。

レンタルケアおのみち



福祉用具は多種多様で利用される方の状況も様々です。いざ自分で選ぶ方が多いようです。そんな時はぜひ

ひ、私達レンタルケアおのみちにお声掛け下さい。福祉用具専門相談員が様々なご質問やご要望にお応えします。「その人らしい暮らし」を実現するためのお手伝いをしています。

今後の展開

近年の介護保険制度の動向をみると、地域や在宅では認知症と重度者へ対応できる事が求められているのは明らかです。私達の日常業務を振り返ってみても、がんや非がんのターミナルケース(終末期)の依頼がここ数年増えているのは確かです。しかし、実情は在宅医療を支えるための医師や介護職がまだまだ不足しています。

このような背景の中、私達は社会医療法人大道会を母体とする介護事業所として、他の事業所のみならず地域の方々にも看取りや最期まで在宅で生活する事の素晴らしさ伝え、この街がゆつくり、しかし、確実に住みよい街になってゆくことを願っています。軽度者への支援も大切ですが、大道会だからこそ他では支えきれない重度な方々を支援する使命があると考えます。そのために私達は今後も研鑽を重ね、少しでも多くの方が最期まで自宅でその人らしく暮らすことを支えられるよう努力し続けます。

次回予告

シリーズ第2回目は、介護老人保健施設グリーンライフの介護サービスを紹介する予定です。乞うご期待下さい!!

発表報告

第1回アジアオセアニア ニューロリハビリテーション学会



森之宮病院
院長代理
宮井 一郎

ニューロリハビリテーションの 成果や新たな介入の可能性に ついて講演

日程：9月3日～5日
場所：韓国ソウル

近年、脳損傷後の障がいに対して、運動や認知機能を制御する脳からリハビリテーションを考える立場、ニューロリハビリテーションが世界的に注目されています。そのような機運からアジア・オセアニア地域の医療者、基礎研究者らが集う第1回アジアオセアニアニューロリハビリテーション学会が2015年9月3日から5日まで韓国のソウルで開催されました。私は講演者として招待され、厚生労働科学研究として多施設で行ってきた脊髄小脳変性症に対するニューロリハビリテーションの成果や新たな介入の可能性についてプレゼンテーションを行いました。

脊髄小脳変性症とは、小脳が次第に萎縮し(これを変性といいます)、歩行やバランスに支障をきたす神経難病の一つです。従来、変性疾患に対するリハビリテーションのエビデンスは明確ではなかったのですが、私達とドイツのグループの研究結果から、集中的に練習すれば、生活機能が向上することが示されました。そこで、自宅でも練習ができるよ

開催報告



森之宮病院
副院長
柴田 徹

第39回日本リハビリテーション 医学会近畿地方会 学術集会



プレゼンテーションを行う宮井院長代理

うに、田辺三菱製薬の患者用サイトで練習用動画の配信を始めており、確かな反響がありました(SCD・MSAリハビリのツボ <http://scd-nsa.net/rehabilitation/>)。それに加えて、脊髄小脳変性症の主徴であるバランス障害に対して、姿勢を制御する補足運動野の活動を高める練習をする効果が上がることが、私達が世界に先駆けて開発したニューロフィードバックを用いた研究で明らかになりました。日常診療だけでなく、このような研究アプローチが神経疾患の方々の生活機能の向上に役立つことを願っています。

2016年5月21日には第7回日本ニューロリハビリテーション学会学術大会を私達が主催して、神戸で開催しました(<http://www.congre.co.jp/isnrn-2016/index.html>)。ぜひ期待下さい。

予想を超えた盛会にリハビリテーション 医学会の広がりを実感

日程：9月12日
場所：森之宮病院ウツティホール

森之宮病院ウツティホールで、第39回日本リハビリテーション医学会近畿地方会学術集会を開催しました。

演題数は演題応募期間に予想していたよりぐんと増え27題となり、さらに予定の教育講演3題が加わっていたため、非常に盛りだくさんになりました。当日参加された医師も154人へのぼり、ホールがいっぱいになりました。そのため、発表時間や質疑応答時間を絞りましたが、それでも最終的に閉会が19時となりました。リハビリテーションという医学が世の中に定着し、これほど多くの医師が日々真剣に取り組まれているのだと改めて感じました。

当院からは、長廻医師、吉岡医師、藤本医師が発表し、教育講演で神経リハビリテーション研究部の服部医師が「安静時脳波位相解析の神経リハビリテーションへの応用」という難しいテーマを面白く分かりやすく講演しました。民間病院でこれほど多くの発表・講演ができるというのは素晴らしいことです。座長は畠中医師、矢倉医師、小倉医師の3名で、短い発表時間ながら参加者の内容の理解が深まるようにうまく進行を務めました。学会開催準備、運営にあたっては、秘書4人、施設部、システム管理部、クラーク科橋之口主任、さらに事務部下里主任と多くのスタッフの協力を得ました。

学会を成功裡に開催することができ

たことに、スタッフ一同及び関係医師に改めて感謝するとともに、大道会の底力を頼もしく思いました。



柴田 徹



服部 医師

発表報告

Roslyn Boyd 教授 講演会



森之宮病院
小児神経科部長
荒井 洋

2名の教授の来院を通して 最前線の研究成果を学んだ

日程：9月26日
場所：森之宮病院ウツティホール

オーストラリア・クイーンズランド大学脳性麻痺リハビリテーション研究センター長を務められているRoslyn Boyd(ロスリン・ボイド)教授が当法人の職員を対象に、「脳性麻痺児における早期の運動と脳の発達」というタイトルで講演されました。Boyd教授はアメリカ脳性麻痺・発達医学会でGayle賞を2度にわたって受賞された、脳性麻痺の世界の研究者です。講演では神経科学に

基づくりハビリテーションの必要性が強調され、片麻痺に対する治療のエビデンス、Webゲームを用いたリハビリテーション、最先端の画像診断技術を用いた早期産児の脳機能検査等、豊富な研究成果を披露されました。日頃から教授の数多くの論文から学ぶことの多い私達ですが、その先を行く領域を開拓され続けている姿勢には圧倒されました。講演には多くのセラピストと小児神経科医が参加し、最前線の研究成果を直接学ぶことができました。

教授は一昨年のアメリカ脳性麻痺・発達医学会で、何の面識もない私の依頼を快くお引き受け下さり、第57回日本小児神経学会サテライトシンポジウム(9月27日、ヒルトンホテル大阪にて開催)でコロンビア大学Andrew Gordon教授とともに講演をされるために来日されました。分かりやすい英語で周囲に積極的に話しかけられ、常に協調的な関係を持たれようとするお人柄にも感銘を受けました。講演後は病棟を訪問され、入院中の子ども達に「私はローズと呼ばれているの。バラと一緒にのよ」と話しかけられ、交流を楽しんでおられました。



小児神経学会サテライトシンポジウムにて

た。また、Karel Bobath博士が参加された最後のボバース講習会の受講生であることも明かされ、私達と共通したスピリットを感じました。

29日には小児片麻痺治療の世界的権威であるGordon教授も来院され、小児病棟をご覧になりました。本来ならば他国での研究を指導に行かれるはずのところを、日本は初めての講演というところで予定を調整して下さったとのこと。今後治療について必要なアドバイスは惜しみませんとお話し下さいました。日本の脳性麻痺研究はまだまだ世界に追いつけません、このような交流を通じて刺激を受け、有能な研究者を募ってレベルを上げていきたいと思えます。

参加報告

日々のケアと臨床倫理 みんなで考える倫理



森之宮病院
看護部4階西病棟
喜多 志津江

看護師が果たすべき 倫理的角色を学べた

日程：7月14日
場所：大阪府病院年金会館

倫理的な問題に日々、直面しているのが臨床倫理とは何かに興味を持ち、大阪府私立病院協会看護部会主催の「日々のケアと臨床倫理 みんなで考える倫理」という勉強会に参加しました。

①倫理とは何か、②倫理一般について、③臨床場面の倫理について、④臨床倫理検討シートを使っての事例検討の

進め方についての講演がありました。これらを通して、日々のケアは倫理的なものだと気付かされました。また、全ての医療行為には倫理的姿勢が伴っていることを学びました。倫理的姿勢とは、自発的に行った振る舞いをコントロールできることであり、人に害を与えないことが求められます。倫理的な姿勢をもつ医療者は学んで専門知識をより多く身に付け、視野を拡大し、適切な状況把握ができるようになればなるほど、倫理的に適切に振る舞い・行動をとるようになります。事例検討を通して、倫理的姿勢や状況把握等、倫理的な振る舞いや行動の答えは一つではなく、複数の選択があり、どうしたらいいのかと考えた時、皆で考えて悩んで倫理を進めていくことが大切だと分かりました。また、医療方針等を決める時は、意志決定に倫理が大きく関わり、最適と思う治療を医療者が選択しても、患者さんやご家族は違う治療を求めている場合もあり、それらを適切に汲み取るには病気だけではなく、患者さん・ご家族の人生の事情や計画も考え合わせてどうしたいかを考え、コミュニケーションをとることが大事だと再認識しました。それらを踏まえ、看護師として、患者さんへケアを伴う観察や、コミュニケーションを通して患者さんやご家族の意見を適切に汲み取り、医師に伝えることこそが、看護師が果たすべき倫理的角色であると学びました。倫理は皆で考え、バランスと質が保たれています。患者さんのために最善な選択ができるよう、他職種とのスタッフと共に、情報共有やカンファレンスの機会を持ち、一緒に考えていけたらと思います。

参加報告

第35回 PTOTST研修会



森之宮病院
リハビリテーション部
作業療法科
中司 穂

生活機能全般を向上させる リハビリテーションが重要

日程：7月4日
場所：TWIN21 MIDタワー

今回の研修会で私が注目した課題は「身体機能に偏ったりリハビリテーションが実施され、活動や参加などの生活機能全般を向上させるためのバランスのとれたリハビリテーションが依然として徹底できていないのではないか」というものです。作業療法の定義から、活動や参加等の生活機能全般を向上させる役割を担っているのはOTであると考えます。振り返ると、リハビリテーション室と生活場面では環境も違うため、リハビリテーションが生活場面に反映されているか考えると不十分な部分があったのではないかと感じます。

回復期リハビリテーション病棟では週に2回、病棟でのリハビリテーションを実施する日があり、リハビリテーション室よりも生活空間に近い病室で治療が行えるこの日を有効に使い、病棟でADL指導を行っていく重要性を感じました。また、前述の課題では、今後さらにOTが活躍できると捉えられると思います。OTとして活動と参加を重点に置き、さらにADL向上を目的とした治療を行っていきたいと考えています。



医療法人明青会
金雅子 医師

大阪市東成区中道3丁目16番15号
06-6753-7416 婦人科、漢方内科



金院長は、平成14年に大阪大学医学部卒業後、大阪大学医学部附属病院産婦人科、大阪労災病院産婦人科に勤務。平成21年に大阪大学院医学研究科を卒業し、医学博士号を取得されました。大学院在学中、婦人科や漢方内科の診療所に勤務された経験から地域に根ざした医療に貢献していきたいという思いが強くなり、平成24年あやこレディースクリニックを開業。クリニックはスタッフ全員が女性で、婦人科一般診療に加え、漢方診療も柱とされています。

「診療をする上では、単に病気だけを診るのではなく、まずは不安な思いを丁寧に傾聴することを心がけています。患者さんは女性であり母であり、家庭においても大切な役割を担っています。本人が良くなることで、家庭や生活もより良いものになっていくことをめざしています。再診時に「楽になった」と表情が良くなっている時は嬉しいです。医学は常に進歩していくので、積極的に勉強会へ参加して、自らの知識や診療技術をブラッシュアップしていきたいです」と話されます。「初心を忘れずに、診療したいです。一人でも多くの女性が健康で楽になってもらえれば、患者さんの『困った』にすぐに対応できるクリニックをめざしたいです」との言葉から、患者さんとして、1人の女性として、サポートしたいと願う金院長の姿勢が感じられ、優しいお人柄と頼もしさを感じました。

(森之宮病院診療部地域医療連携室 藤野友理香)

頑張っている職員に注目!

ただ今、奮闘中

#52



大道クリニック人工透析科
森本 夕子 科員

大道クリニック人工透析科の森本夕子さんを紹介いたします。

森本さんは大道会のスタッフになって4年目。彼女は看護師免許の他に歯科衛生士の資格もある努力家です。透析看護は大道クリニックが初めてのため、技術や透析看護の習得は大変だったと思います。それでもいつも明るく笑顔で患者さんのケアをしている姿にはきらりと光るものがありました。透析患者さんとは週3回の長いお付き合いで家族のように会話をしてみたい、接遇が置き去りになることもあります。しかし、森本さんはいつでも接遇は丁寧で、傾聴することができます。あまりに心配性でパタパタと動くことから患者さんにはパタパタさんと呼ばれています。今年初めて新人教育担当となり右往左往しながら指導していますが、新人教育に関わることで彼女自身も大きく成長することを期待しています。人工透析看護を極め、そして大道会のスタッフとして他施設との連携にも関わられる看護師になってもらいたいです。

(大道クリニック人工透析科主任 中川明美)

森之宮病院

全日本病院学会で病院機能評価に関する報告を行いました

9月12日、全日本病院学会 in北海道において開催された、病院機能評価委員会企画の「期中の確認」の実際の中で、森之宮病院の「期中の確認」実践報告を行いました。

病院機能評価の方法は、現在までに数回改訂されており、2014年から3rdG:Ver1.1となりました。今回改定の特徴として、5年間の認定期間の中間(3年目)で、認定病院の継続的質の評価・改善の進捗度合いを確認するという仕組みが追加されています。森之宮病院でも2013年に3rdG:Ver1.1の機能評価を受審し、今年5月に「期中の確認」を実施しました。「期中の確認」においての機能評価機構提出課題は、機能評価受審時の全89の評価項目(中項目)の中で、B・C評価の改善状況を「質改善活動報告シート」に記述し提出することでした。今回、森之宮病院ではS・A・B・C全ての評価項目において改善している点があれば質改善活動報告シートを作成し、今回31の中項目において質改善活動報告シート

において質改善活動報告シート

を提出しました。提出部署は8部署・1委員会・共同提出5チームと全病院を上げて取り組んでおり、学会でも森之宮病院の積極的な取り組みを、とても高く評価して頂きました。また、今回提出した質改善活動報告シートの事例の中で「身体拘束・抑制と転倒対策フロー図のバージョンアップ及び監査の仕組み」の事例が、医療機能評価機構から9月に発行された冊子『Practical』に掲載され、とても誇らしく感じています。

今回の「期中の確認」にとどまらず、今後も更なる業務の質の向上に向け励んでいきたいと思えます。

(森之宮病院看護部副部長 福井真理子)



発表者の森之宮病院看護部副部長 福井副部長

地域ケアマネジャー向け勉強会を開催しました

在宅事業部では2014年から地域のケアマネジャーを対象とした勉強会を開催しています。今年9月11日(金)18時15分から2時間、「ターミナルケアについて」をテーマに開催しました。

勤務後の2時間という中、当法人外の多数のケアマネジャー(約25名)がご参加下さいました。

内容は、①「在宅看取りの5つのステージ」について、ステージごとの看護師の役割や関わり方について講演しました。②「日本の看取りの現状報告と事例報告」では、その中から見えてくる問題や課題を取り上げました。

講義後、ケアマネジャーとして今まで経験した困り事や課題等をグループディスカッションしました。長時間の講義にも関わらず、熱心に聞いて下さり、質問して頂きました。

ディスカッションでは貴重な経験や課題を発表して頂きました。その一部として、担当している利用者が入院されていた時、事前にアポイントをとっていたにもかかわらず、家族が同席しないと具体的な事は言えないと情報が取れなかったという事例が発表されました。また、非がんの



勉強会の様子

方(老衰や臓器不全)の看取りを一般市民や医療従事者がどのように考え、具体的に対応できるかで在宅も病院施設も大きく影響されるのではないかと、様々な意見を頂き、開催側にとっても良い学びとなりました。(訪問看護ステーションおおみち 篠原真規子)

古澤正道名誉副院長・高橋幸治主任が執筆した『脳卒中後遺症者へのボバースアプローチ～基礎編』が出版されました

ボバース記念病院の古澤正道名誉副院長が執筆・編集した『脳卒中後遺症者へのボバースアプローチ～基礎編』が出版されました。

ボバース概念の歴史からシステム理論や運動学習理論まで、豊富な経験と科学的な根拠に基づき8章に分けて構成し、詳細に記述しています。また、本書は理学療法士・作業療法士になって3～5年目位の若いセラピストに焦点を当てており、カラーのイラストや写真が多く使用されているため、非常に分かりやすい内容となっています。

特に、臨床において重要となる正常運動(ヒューマンムーブメント)につ

いて本書は重要視しており、森之宮病院理学療法科の高橋幸治主任が詳細に記述しています。クリニカルリーディングに基づいたハンドリングや環境設定をすることで、適切な感覚入力をしやすくし、姿勢運動の制御が可能になることを述べています。

続編となる『脳卒中後遺症者へのボバースアプローチ～臨床編』は現在、執筆中で、2016年春に出版予定です。こちらも同様に執筆・編集を古澤名誉副院長が行っています。続編は、より実践的な内容となっており、今から出版が待ち遠しい一冊です。(ボバース記念病院リハビリテーション部理学療法科 星野友昭)



運動と医学の出版社から出版された『脳卒中後遺症者へのボバースアプローチ～基礎編』

ご寄付・ご寄贈を頂きました

和家千恵子様(大阪市城東区)、宮崎かなゑ様(大阪市東成区)よりご寄付を頂きました。ありがとうございます。有意義に活用させていただきます。

Live30【ライブ・サーティ】

2015年11-12月号 vol.213 (隔月発行)

編集発行人/社会医療法人大道会

〒536-0023 大阪市城東区東中浜 1-5-1

TEL.06(6962)9621 FAX.06(6963)2233

■大道会

社会医療法人大道会本部

TEL 06(6962)9621

森之宮病院

TEL 06(6969)0111

ボバース記念病院

TEL 06(6962)3131

森之宮クリニック(PET画像診断センター)

TEL 06(6981)9600

帝国ホテルクリニック(人間ドック)

TEL 06(6881)4000

大道クリニック(人工透析)

TEL 06(6961)5151

介護老人保健施設グリーンライフ

TEL 06(6965)0666

訪問看護ステーションおおみち

TEL 06(6967)1123

訪問看護ステーション東成おおみち

TEL 06(6977)8680

ケアプランセンター城東おおみち

TEL 06(6964)5285

ケアプランセンター東成おおみち

TEL 06(4259)5311

レンタルケアおおみち

TEL 06(6967)6250

特別養護老人ホームサンローズオオサカ

TEL 06(6974)7388

東成山学学園(保育園)

TEL 06(6974)7377

●大道会ホームページ

<http://www.omichikai.or.jp>

大道会



編集後記

今年も恒例のクリスマス会が開催されます。大道会各施設では、季節に応じたイベントを行い、利用されている方々の楽しみの1つとして感じて頂けるよう試行錯誤して取り組んでいます。適切な医療の提供だけではなく、どれだけプラスアルファできるのか、広い視点を持って考えていくことが結果として更なる医療の向上に繋がるのではないかと思います。これからも、大道会のタイムリーな情報を提供できるように広報活動に努めていきたいと思っています。(広報推進委員/ボバース記念病院リハビリテーション部理学療法科主任 藤田良樹)